

2021 年度秋セメスター 授業評価結果

1. 実施率

表 1 授業評価実施率

| | 対象科目数 | 実施科目数 | 実施率 (21 春セメ実施率) |
|-------------|-------|-------|-----------------|
| 共通科目 | 46 | 46 | 100% (100%) |
| 看護学部 | 45 | 45 | 100% (100%) |
| 社会福祉学部 | 92 | 92 | 100% (100%) |
| リハビリテーション学部 | 76 | 76 | 100% (100%) |
| 計 | 259 | 259 | 100% (100%) |

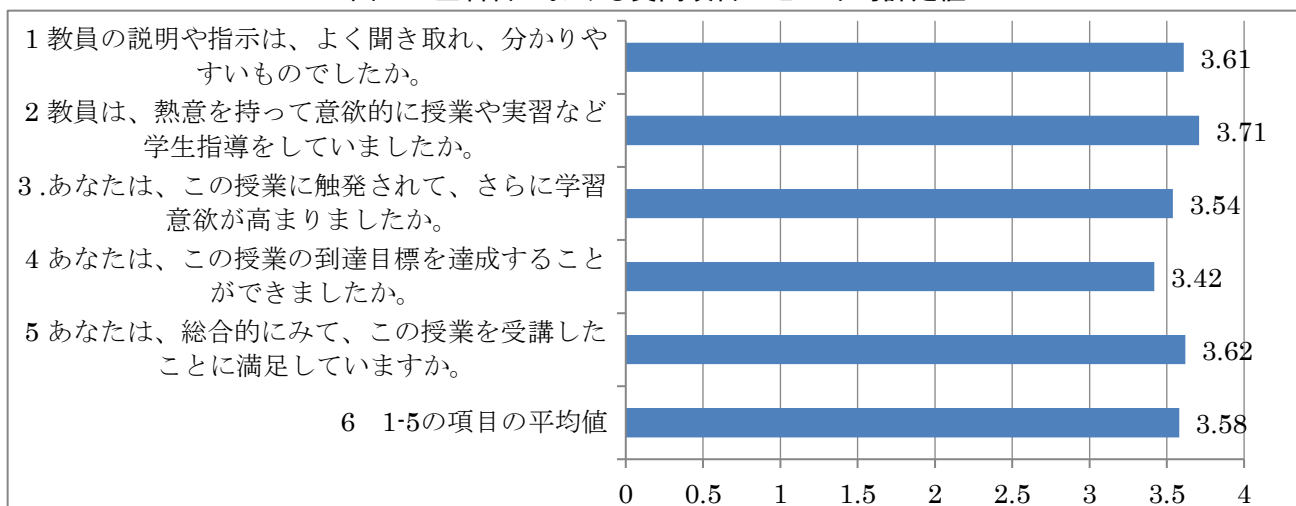
実施結果について

対象とした全ての科目で、授業評価を実施しています。WebClass での実施となり、学生の回答率が下がっていますので、引き続き授業評価への協力の呼びかけと評価への対応を組織的に進めていきます。

2. 授業評価結果

評価票の評価について「そう思う」(4点)～「そう思わない」(1点)と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した(図1～図5)

図 1 全科目における質問項目ごとの平均評定値

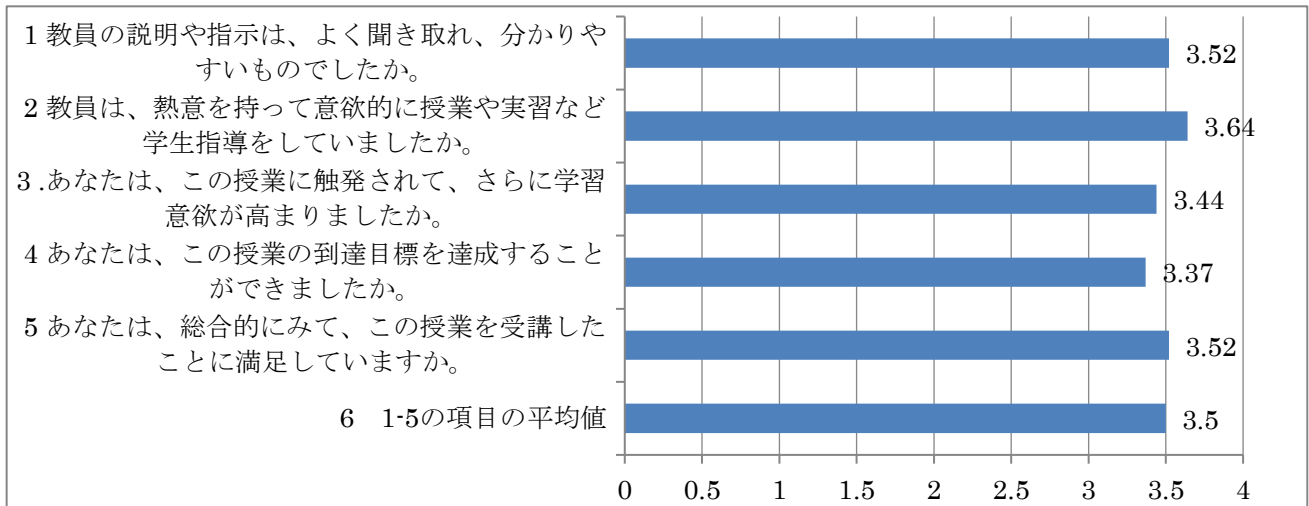


秋セメ授業評価平均値比較

| 問 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|---|--------|--------|--------|
| 1 | 3.57 | 3.65 | 3.61 |
| 2 | 3.64 | 3.76 | 3.71 |
| 3 | 3.51 | 3.46 | 3.54 |
| 4 | 3.44 | 3.39 | 3.42 |
| 5 | 3.56 | 3.59 | 3.62 |

問1・2(教員の教授方法や姿勢)については低下しているにも関わらず、問3・4・5(学生側の学習意欲、授業の達成度、受講への満足度)は軒並み向上している。特に問3・4は2020年度に低下したが2019年度並み、もしくはそれ以上に回復している。問5の満足度に関しては確実に上がってきている。コロナ下での各学部の授業運営の試行錯誤が一段落し、学生もそれに順応し、本来の学習内容に専念できるようになってきたと見ることもできよう。明らかに低下している問1・2については、数値の大小の厳密な比較とその根拠については解釈の限界があるものの、各学部の傾向を踏まえてみると、看護学部が1学年160名でのコロナ対策のため、2教室に分けての講義運営を強いられており、その際のインフラの不安定さによる、学生・教員双方のストレスが影響している可能性がある。それらの制約がありながらも、学生側の意欲、達成度、満足度が向上しているのは、様々な制約がある中であっても、その状況に慣れたうえで、教員も学生も努力していることの表れであると思われる。個々の教員の講義内容や方法の研鑽は、教員側の継続的な課題であるが、各教室のAV機器や操作方法の簡易化と統一等、インフラの抜本的改善も課題であると思われる。

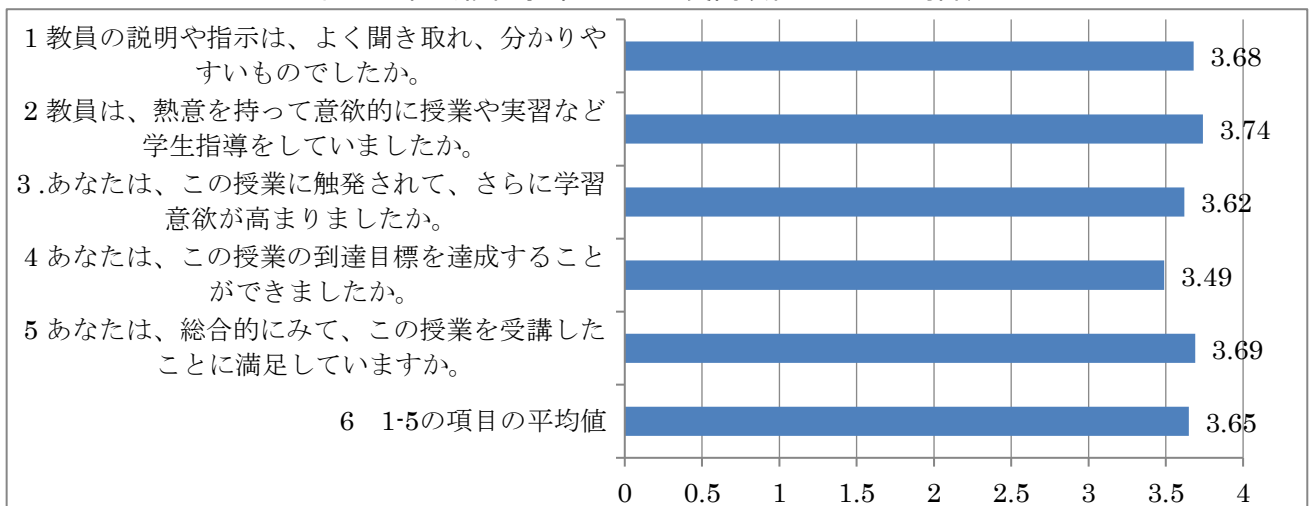
図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値



看護学部 FD 委員会のコメント

2021年度、看護学部の授業評価は、前年度と比較してほぼ横ばい（5項目中3項目上昇・2項目低下だが変化量は微少）でしたが、2020年度評価がその前年度と比較して全項目とも低下していたことから、コロナ禍の影響継続が考えられます。この評価は、教育内容や方法における取り組みの不足を示すのではなく、1学年160人近い学生の感染予防のために余儀なくされている2教室授業での精一杯の工夫や、代替実習におけるシミュレーション等により、長引くコロナ禍においても、学生のモチベーションの低下を食い止めた、ととらえます。今後は新カリキュラムにのっとり、さらに授業設計や教授方法の工夫に努めます。

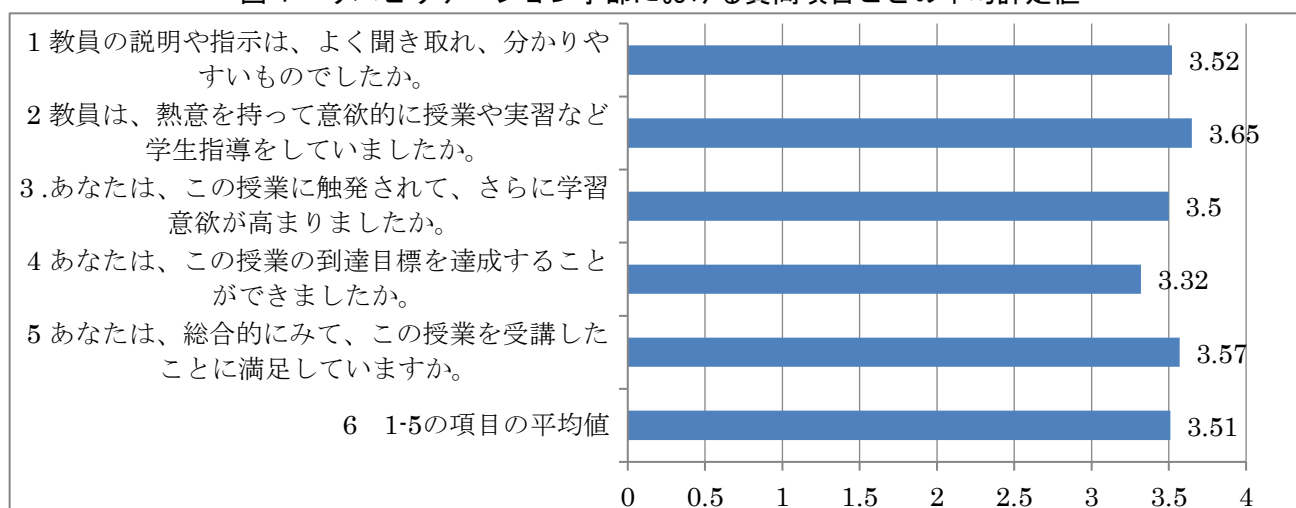
図3 社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定



社会福祉学部 FD 委員会のコメント

どの項目についても概ね高い評価が得られています。コロナ禍にあつてなかなか難しい授業運営を強いられるところではありますが、それでも工夫しながら学生同士の協同的な学習を展開したり、事前事後に自ら課題に向けて学修を深めたりなどアクティブラーニングの展開を進められたことがよかったと思われます。今後も同じような視点に立ち、さらにICTを活用して個別最適な学修と協同的な学修、探究的な学修を展開するようにしたいと思います。4の到達目標に関する項目は、学生FDスタッフの代表から「この項目は他の項目より低くなっても当然ですが、授業の開始時や授業ごと、また終了時にアナウンスしてもらうと意識しやすい」といった意見をいただいているので、そのような意識をもって授業改善に臨んでいくようにします。

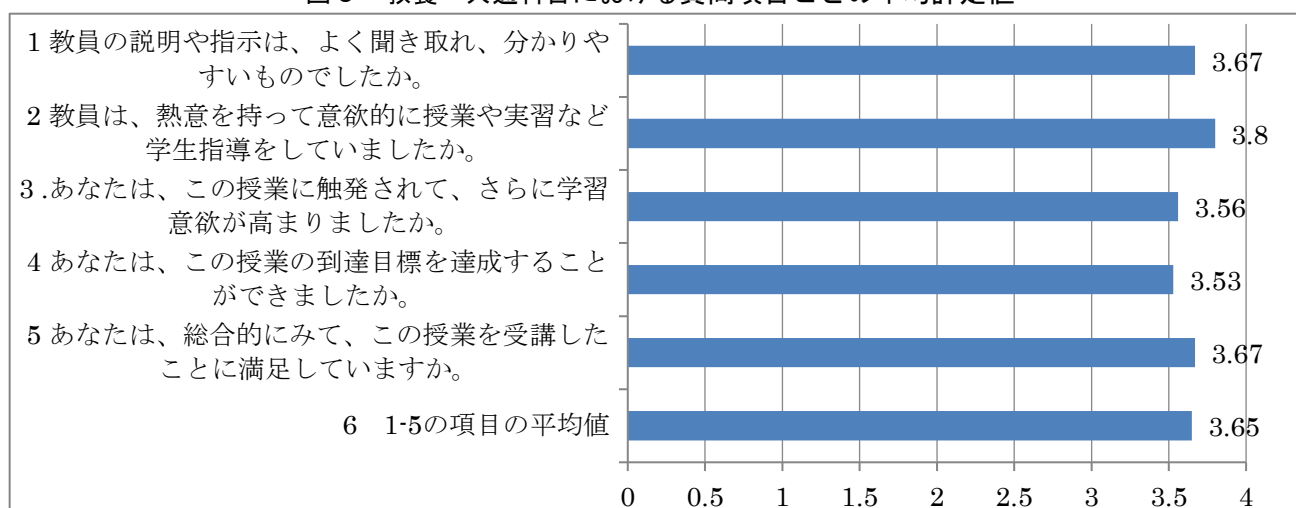
図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値



リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

全体的な傾向としては、横ばいから微増と言えます。教員の授業に関する評価は概ね 3.6 前後でしたが、「到達目標を達成することができた」の問いは、他の項目に比べてやや低い結果となっています。今後は、到達目標を意識して授業計画やシラバス作成などを行う必要があると考えております。また、学生自身が到達できたか否かを実感できるような学習過程での「形成的評価」「総括評価」のあり方も検討していきたいと考えております。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

2020 年度秋セメの授業評価に比べ、すべての質問において点数が上がっていました。質問 3 と 4 については、他の質問より若干低い点数となりましたが、3.5 点以上は学生の皆さんが概ね学習意欲が高まり、到達目標に達したと実感していると思われます。今後も、授業設計やシラバス作成がわかりやすくなるように改善を進めて行きます。